



シルバー人材センター
キャラクター「チエフクロ」

高齢者が働くことに生きがいを感じ、地域社会に貢献する

VOL. 17

令和2年2月1日号

NARITA

銀のたまご



特集

通学路防犯広報啓発活動



特集

通学路防犯広報啓発活動

パトロール車で子どもたちを見守る

成田市では子どもたちを事件や犯罪から守るためパトロール車による防犯広報啓発活動を行っています。本センターではこの業務を通して地域の安全安心を守ることに貢献しています。

子どもを守る動き

全国で子どもが犯罪被害者となる凶悪事件が多発する中、成田市では子どもたちを犯罪から守るためさまざまな取り組みや機関の設置が行われてきました。地域の子どもたちは地域で守ろうと、平成15年に市内25の団体による成田地区防犯パトロール隊が結成されたのを皮切りに、町内会などでも自主パトロール隊が相次いで結成されました。続く平成16年には防犯事務所が設置され、子どもを犯罪や事故から守る青少年育成指導員が配置されました。その後防犯まちづくり推進条例の施行(平成19年)や防犯まちづくり推進計画の策定などが行われるなど、

市内の安全安心に対する動きが加速していきました。(次ページ参照)

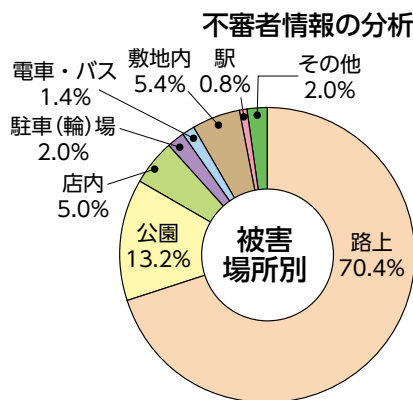
「通パト」運行開始

こうした中、地域の安全安心を守るため、平成16年には青色回転灯を装備したパトロール車に育成指導員と防犯巡回指導員が共に乗り込んで、市内全域を巡回する活動が開始されました。これにより市内の隅々まで防犯の目を行き届かせました。

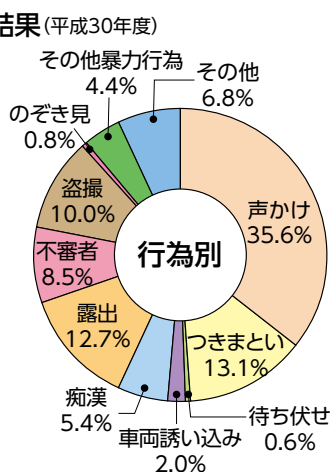
この巡回活動を、多くの市民が不安を感じていた子どもへの防犯にも拡大しようとして、平成18年9月、同じく青色回転灯を装備した通学路専用のパトロール車6台が導入されました。こうして「通学路防犯広報啓発活動」として事業が正式にスタート



通パト出発式(平成18年9月15日、成田市役所で)



(千葉県警調べ)



し、運行は成田市シルバー人材センターが任せられ現在に至っています。よく使われる「通パト」という呼び名は、この事業名とパトロール業務の略称です。

事件につながる前兆事案

市民の防犯意識の高まりとともに犯罪の発生件数は以前に比べると少なくなっているものの、平成30年度の県内犯罪発生件数は約47,000件(千葉直警調べ)となっています。成田市ではピークの平成14年に約4,000

件だったものが、平成30年には約1,200件ほどに減少しています。

一方、県内発生犯罪数の内約1,000件が少年犯罪となっていて、子どもが被害に遭った事例は約300件となっています。多い事案として①児童買春、児童ポルノ②育成条例違反③未成年喫煙禁止法違反などです。

事件とはならなかったものの、不審者などの前兆事案が市民などから警察に寄せられることも多く、平成30年度は成田署だけでも177件に上りました。千葉県警に通報のあった前兆事案の内、13歳未満を対象にした不審者情報1,500件について見ると「声かけ」が4割近くを占め、この行為が犯罪発生につながる前触れといえます。また、不審者による「声かけ」「つきまとい」などの被害に遭った場所としては路上が7割にも達しています。(上表)

同調査では子どもたちの帰宅時や通学時の被害が6割を占めることから、下校時間帯から薄暮時にかけて見守りを強化することが犯罪防止には重要としています。

これらの調査結果を見ても分かる通り、改めて通学路防犯パトロールの必要性和重要性を認識することが出来ます。

成田市の防犯への取り組み

- 平成15年
 - 7月 25の関係団体が成田地区防犯パトロール隊を結成
- 平成16年
 - 4月 市防犯事務所を設置し、青少年育成指導員を配置
 - 7月 防犯巡回指導員が活動開始
 - 12月 青色回転灯を装備したパトロール車を導入。市内全域の巡回活動を開始
- 平成18年
 - 1月 不審者情報などを保護者の携帯電話に連絡する学校情報配信システムを運用開始
 - 9月 通学路防犯パトロールを開始。専用車両として「青パト」6台を導入
- 平成19年
 - 10月 成田市防犯まちづくり推進条例が施行
- 平成20年
 - 4月 成田市駅前番所(えきばん)が業務開始
 - 12月 防犯かけこみ110番の店としてコンビニエンスストアとガソリンスタンドを中心に協力依頼
- 平成21年
 - 7月 成田市移動駅前番所(移動えきばん)活動開始
- 平成24年
 - 9月 成田市暴力団排除条例施行

任務は子どもたちの見守り

「通パト」でパトロールを行う会員に対しては、千葉県警より「パトロール実施者証」が交付されていますが、身分は一般社会人であるため活動は限定されています。その業務内容は、子どもたちに関わる連れ去りや誘拐事件を未然に防ぐための見守りが主な任務です。

市から示された業務仕様でも不審者を見かけたときや犯行現場を目撃した場合は直ちに警察や防犯事務所等へ通報することになっており、不用意に相手を取り押さえたりすることはできません。

通パト会員の活動に当たっては



集団下校の子どもたちを見送る会員

「無理をしない、無理をさせない、怪我をしない、怪我をさせない」ことが求められています。



いざパトロールに出発(JR成田駅西口の防犯事務所前で)

市内全域を30人で

現在、市内には小学校24校と中学校9校、それと小中一貫校1校の市立小中学校があり、これらを6ブロックに分けてパトロールを実施しています。就業会員は30人で、1ブロック5人づつ6班に分かれ2人1組で地区を巡回しています。市街地を含む第4ブロック以外は区域が広く、巡回コースによっては1日に100km以上走行することもあります。

活動は年間を通じて行われますが、基本的には子どもたちの登校日となつているため、夏休みや冬休み中は出勤回数は少なくなります。活動時間は始業日などの特別な日を除き、夏期間(4月～9月)が13時30分～19時30分、冬期間(10月～3月)が12時30分～18時30分となっています。子どもたちが被害に遭う割合が最も高い、下校時から遊びに出かける時間帯に見守り活動を行うことで犯罪の抑止に努めています。

防犯事務所を拠点に活動

通パトの運行業務を、冬期の就業日の流れでみると次のようになります。当日午後、担当する12人の会員(6ブロック×2人)は、まずJR成

田駅西口の防犯事務所に集合、決められた服装(防犯ベストと防犯帽子着用)とパトロール実施者証や110番通報メモの携行を確認し、事務所敷地内に配備されているパトロール車の点検・清掃を行います。次に全員で出発前の打ち合わせを行います。ここで市交通防犯課担当者や防犯まちづくり指導員から市内の情勢や必要な連絡を受けた後、各地区へと向かい出発します。

担当エリアに入ると、各小中学校やその通学路の立ち寄りポイントで見守り活動を行うとともに、パトロール車の放送設備で防犯の呼び掛けや防犯広報を流しながら地区内を隈なく走行します。

パトロール後、報告書に当日の活動状況を記入し防犯事務所へ提出し業務終了となります。



出発前の車両点検



車から降りて危険個所のチェック

さまざまな事態に対応

パトロール活動中には、さまざまなトラブルが想定され、その都度最善の対応が求められます。そのため会員は、常に活動マニュアル(手引き)に基づいた行動を心掛け業務を行っています。

手引きでは、通学路周辺で特に注意する場所としては、①人通りの少ない道路②荒れた空き家や店舗③見通しの悪い公園④地下道や高架の下⑤警備員のいない駐車場や駐輪場などとなっております。パトロールではこのような場所は入念にチェックをし

ています。通学路は交通事故防止のため交通量の少ない場所を選定することがあるため、そのような道路は特に注意が必要な場所として、子どもたちが安全に下校できるよう重点的にパトロールを行っています。

また、警察や防犯事務所から活動中の通パト会員に不審者情報などの緊急連絡が入った場合は、該当地区の会員は警戒を強化するとともに、他地区でも同様の犯罪防止に動き出します。

シルバーの経験を生かす

通パト業務には、警察の「青色防犯パトロール講習」を受けパトロール実施者証を交付された会員が就業しています。防犯に関心を持つ会員なら前記の講習を受ければ通パト業務に就くことが出来ます。現役時代の経験を仕事に生かせるということで、警察官OBの会員も何人か就業しています。パトロール現場では予期せぬことが起こる場合があります。警察官OBの長年にわたり培われた経験は通パト活動を行う上では大きな強みとなっています。

本センターでは会員の経験を最大限に活用した人員配備を行うことで「通学路防犯広報啓発活動」業務を遂行しています。

感謝の気持ちを作文にしています



八生小学校
根本 達也 校長

学区内の通学路には、車の通りが多い場所や人通りの少ない場所など、子どもたちが歩くには心配な箇所があります。下校時に、そのようなところでの見守りや防犯啓発活動をしていただき大変感謝しています。本校では、4月に通パト隊員の方と対面集会を行っています。その後6年生が感謝の気持ちを作文にして校内に掲示し、防犯と交通安全の意識を高めています。これからも、シルバー会員の豊富な経験を活かし、防犯パトロールや子どもたちへの声掛けを続けていただけるとありがたいですね。



通学路
防犯パトロール隊
山田 宗光 会員

通パトは、周囲の市民に自分たちの存在を見せることが一番重要で、それが犯罪の抑止につながっていると思っています。パトロール中は絶対に事故を起こさないよう、交通規則を守り、模範となるような安全運転を心掛けています。この仕事で一番驚いたのは、地域の誰からも「ありがとう」「ご苦労様」といった感謝の言葉を掛けられることです。特に子どもたちは通パトに親近感を持っているようで、道端から手を振ってくれたりお辞儀をしてくれたりすると、こちらも清々しい気分になりますね。

誰からも感謝の言葉を掛けられます



女性部会

交流会

女性会員の交流を図ろうと、10月3日、中央公民館で千葉の郷土料理「太巻き寿司」料理教室が開催されました。昨年から女性会員が集まり健康体操や手芸などの会を開いているもので、今回16名の女性会員が参加。以前からいろいろなところで作り方を教えていたという本センターの萩原薫会員が講師となり、「バラ・アザミ・花椿・四海巻」の4種類の寿司作りに挑戦しました。



レシピを見ながら太巻き寿司を巻く会員

「太巻き寿司」は古くから冠婚葬祭や集まりの時のごちそうとして千葉県内で受け継がれてきたのですが、意外にも参加した会員のほとんどが作るのは初めてのこと。「バラ」はどの班もきれいできたものの、「アザミ」はとても難しく各自が悪戦苦闘。最後はみんなで和気あいあいと、見てキレイ・食べておいしい太巻き寿司に舌鼓を打っていました。



きれいに巻けた太巻き寿司

入会説明会

女性を対象とした説明会が、9月19日、10月25日、赤坂ふれあいセンターで開催されました。会場では通常の説明に続き、女性理事が、自身の入会動機や就業についての体験などを参加者に語り、入会を呼び掛けました。この説明会は年3回予定しており、次回は3月23日に開催予定です。



説明会の様子

● 成田市健康・福祉まつり

10月19日・20日の両日、保健福祉館(赤坂)を会場に、18回目となる成田市健康・福祉まつりが開催されました。下村理事長をはじめとする理事や事務局職員、広報部会員らは来場者に対し会員募集やPRはもちろんのこと、仕事の内容についても分かりやすく丁寧に説明。また、多くの会員が支援ボランティアとして参加し、来場者カウンタやロードトレインの受付に汗を流しました。

普及・啓発活動

PR活動実施中!

● 成田市産業まつり

11月16日・17日、恒例の第39回成田市産業まつりが成田国際文化会館(土屋)を会場に開催されました。本センターではシルバー人材センターをより多くの市民の皆さんに知ってもらうため普及・啓発活動の一環として毎年参加。今回も下村理事長や理事などが来場者に積極的に声掛けするとともに、チラシや風船などを配布しPRに努めました。会場では実行委員会から委託を受けた会員4名がオレンジベストを着用し清掃と美化に活躍しました。



来場者をカウントする会員



来場者へチラシを配布する下村理事長(右)

新入会員紹介



行木 廣勝さん
(寺台)

行木さんは昨年7月に入会し、現在は公民館で就業しています。シルバー人材センターに入ろうと思ったきっかけは、既に入会している多くの知人から色々な話を聞いたことだそう、そのうちに自分でも何か役立てることがあるのではないかと思いうようになり、半ばボランティアの気持ちで入会したとのこと。

公民館の仕事について伺うと「臨時職員さんとの関わり方や夜の勤務についてはまだまだ緊張感でいっぱい。システム画面に慣れることも大変です。でも魅力ある公民館を目指して頑張っていきたいです。」と答えてくれました。

現役時代はボランティアガイドを育成する仕事に携わった経験があり、ガイドのための資料作成や人集めなどとても苦労したとのこと。そのことについて話されるときの表情はとても楽しそうで、とてもやりがいの



趣味を生かして植木の手入れも

ある仕事だったようです。もともと祭りが大好きで祭りの話をしたら止まらなくなるといふことでしたが、その他にも園芸や神社・仏閣めぐりなども好きということなので、神社・仏閣めぐりでお勧めの場所とは尋ねると、「京都の山科にある、豊臣秀吉が花見をしていたことと有名な醍醐寺。庭園が素晴らしから」と、すぐに詳しい解説付きで答えが返ってきました。

とにかく自分の好きなことについて語らせたら、時間がいくらあっても足りないと言った姿がとても印象的で、就業に興味にと日々充実した生活を送られていることが、話のあちらこちらから伺うことができました。

サークル紹介 NSC旅行会

北関東小さな旅シリーズ第3弾、「宇宙と歴史と老舗料亭の会席料理を楽しむちよっとリッチな旅」として9月27日、茨城県へ。本センター岩館利成副理事長がにわか添乗員となり、楽しいトークから旅はスタートしました。



再現された江戸の街並み

出発から1時間半ほどで、映画やドラマのロケに使われているワープステーション江戸(つくばみらい市)へ。江戸から昭和の街並みが見事に再現されており、テレビなどで見た場所はここだったのかと思ひながら、最近撮影が許可された場所で記念に写真を一枚。

昼食は創業が明治22年、連合艦隊司令長官の山本五十六も訪れていたという茨城を代表する老舗料亭霞月楼(土浦市)。料亭の歴史を聞きながら豪華な会席弁当を美味しくいただきました。

最後は人工衛星の開発や運用が行われ、宇宙開発の中核センターとし



筑波宇宙センターで

ての役割を担っている筑波宇宙センター(つくば市)へ。身分証明書を持ち一人ずつ受付をし、普段は見られない国際宇宙ステーション「きぼう」の管制室や宇宙飛行士の訓練施設を見学しました。管制室はガラス越しに見学できるようになっており、大きなモニターに映るNASAや宇宙からのライブ映像に大感激。訓練施設では色々な説明があり、その後実際に宇宙飛行士が使う道具を間近で見ることができました。

この旅行の最後に岩館添乗員が「江戸から宇宙まで壮大な旅を楽しむことができましたね。」と締めくくると、参加者全員がうなずいて楽しい旅を終えました。

わたしの趣味 —ウォーキング—

片岡 健二 会員(玉造)

ウォーキングを始めたのは15年前で、現在、千葉歩こう会と成田ウォーキングクラブに所属しています。会が企画するコースは歩く場所も様々で、距離も短いものから長いものまで色々あります。個人的には海を見ながらのコースが好きですが、東京の



愛用のグッズ

下町など歩いてみたいと思うコースに参加するようにしています。時速5~5.5kmくらいで歩くので、けっこ

う速いとは思いますが、景色は十分堪能することができ、こんな場所があったのかと新たな発見もたくさんあります。また、参加者とのコミュニケーションを積極的に取ることによって新たな仲間が増え、色々な情報交換をすることができることも魅力のひとつです。今から6年前の70歳の時には50kmを10時間で歩くことができました。これも仲間の情報や励ましによるものです。これまでに訪れたところの情報はずべてメモしていますが、自分にとってはこれが一番の宝物となっています。

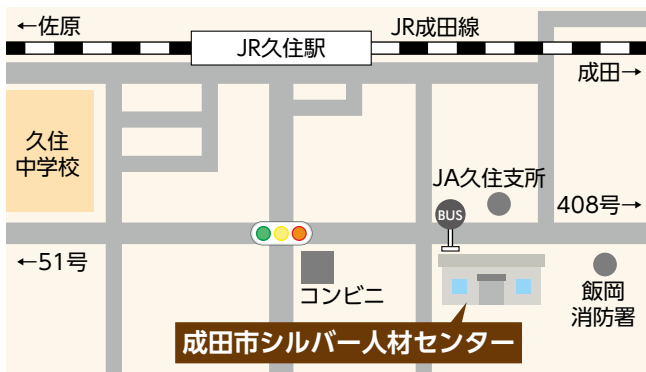


事業実施状況報告(4月~9月)

事業実績報告		平成30年度	令和元年度
会員数	男	414人	404人
	女	110人	103人
	合計	524人	507人
就業実人員		431人	423人
就業率		82.3%	83.4%
受託件数	公共機関	287件	270件
	民間企業	478件	455件
	一般家庭	1,064件	1,048件
	合計	1,829件	1,763件
契約金額		122,265千円	118,466千円

台風の影響で契約金額は大幅減に

昨年度と比較すると会員数は、高齢会員の退会などにより男女とも減少し全体で17名減となりました。今期は酷暑の中での除草・植木剪定作業が続き、会員への負担軽減のため作業量を減らしたことや、甚大な被害をもたらした台風と大雨などの影響もあり、上半期の契約金額は昨年度と比べ3,798,713円の大幅な減となりました。異常気象による影響はその後も続き、さまざまな作業で進捗の遅れが目立ちました。特に、除草・植木剪定作業は数カ月待ちの状態が続きました。



編集・発行 公益社団法人 成田市シルバー人材センター 広報部会
 〒286-0819 成田市久住中央1丁目12番地3
 TEL 0476-36-6161 FAX 0476-36-6711
<http://webc.sjc.ne.jp/narita/index>
 E-mail: narita@sjc.ne.jp

〈受付時間〉
 月~金曜日 午前8時30分~午後5時15分
 (土日・祝日、年末年始除く)



編集後記

昨年9月の台風15号には驚きました。あの風の強さは生まれて初めての経験で、我が家の屋根瓦も飛び室内は雨漏りで水浸しの状態に。停電も長引きセンターの事務所も開店休業状態となりました。皆さんも何らかの被害に遭われたのではないのでしょうか。その後も台風、大雨と続きとうとう避難命令まで出される始末に。個人的には令和元年は別の意味で記念すべき年となってしまいました。このような状況でしたから、予定していた本の取材なども1カ月以上遅れてしまいました。今年は何も起こらないようにと祈るばかりです。